

九州北部豪雨

被災母子支援のとりくみ  
報告書



朝倉災害母子支援センター  
きすずな

# 目次

■ はじめに	01
I 活動	02
1. 被災母子および女性の避難所として	02
2. 女性ボランティアの宿泊・拠点として	02
3. 相談事業	03
(1) 母子相談・デイケアサービス（県助産師会）	03
(2) 子どもの悩み・生活相談（元養護教諭）	06
(3) 女性の人権相談（朝倉人権擁護委員協議会）	07
(4) 法律相談（弁護士会奔流）	08
4. イベント企画	08
5. 支援物資の配布行動	11
6. プレーパーク「冒険遊び場」のとりくみ（共催事業）	12
II 各方面からの支援について	13
1. 「きずな」の運営にかかわったボランティアスタッフ	13
2. 避難訓練	14
3. 支援金と助成金および支援物資	15
4. 視察	16
III 情報発信やマスコミ	16
IV 課題と今後に向けて	17
V 資料	20
・全体の利用・活動状況	21
・月の事業のチラシ	22
・相談事業のチラシ	23
・プレーパークのチラシ	24
・利用者アンケート集約結果	25
・視察見学一覧表	28
・支援物資一覧表	29
・福岡県防災賞（知事賞）パネルと賞状	30
・新聞記事	31
■ 役員名簿	37
■ あとがき	38

## はじめに

2017年7月5日九州北部豪雨災害において、朝倉市は甚大な被害をこうむりました。

1時間120ミリを超える雨が9時間降り続け、最高774ミリという観測史上初めての豪雨となりました。誰もが予測できない事態であり、一夜明けると河川が決壊し、土砂とおびただしい流木が流れ込み、家屋や田畑が流され、河川や村の地形が変わってしまっていたのです。道路も寸断され、今でも立ち入れない地域も残されています。

朝倉市では、未だに行方不明者が2人、尊い犠牲となられた方が33人おられます。被災直後は約1,000人近い方が避難所生活を余儀なくされていました。

被災直後、各避難所を巡りながら「何ができるのだろうか」「何をしなければならないのだろうか」と自問自答をしていました。避難所では配慮が必要な高齢者や障がい者、母子等の対応について話し合われ、別の場所に避難された方もありましたが、それでも小さい赤ちゃんを連れた母親の姿もあり、一日も早く安心してゆっくり休める場所に避難させてあげたいという思いで一杯になりました。

昨今、全国各地で災害が起きていますが、災害時の母子支援までには行き届かず後回しになるという実情を聞いていました。それだけに、災害時の母子や女性に特化した支援の必要性を感じていました。まず女性の視点での支援のとりくみをしていくためには、「災害母子支援センター」という拠点を作らなければならないと考えました。幸いにも休院中の産婦人科医院に相談をして、快くご協力を頂くことができました。

まずは一日も早く立ち上げることが大事だと考え、7月20日に第1回の準備会を立ち上げ、そして8月1日の開所に向けて動き始めたのです。J女性会議福岡県本部に協力を依頼したところ、「応援するよ!」という心強い言葉と共に駆け付けてくれて、みんなと一緒に開所に向けてひたすら走り続けました。この時ほどJ女性会議や女性のネットワークの凄さを感じたことはありません。改めて女性のパワーや団結力には敬服させられています。日頃から、困った時にいち早く駆け付けてくれる仲間がいることが、いかに大切かと思われました。皆様のご協力のおかげで、10日間で開所することができたのです。拠点の名称は「朝倉災害母子支援センターきずな」と決定し、次の3つの柱で活動を始めました。



- ◆被災母子および女性の避難所
- ◆女性ボランティアの宿泊・拠点
- ◆母子、女性と子どもの相談・支援

(事務局長 大庭きみ子)

# I 活動

## 1. 被災母子および女性の避難所として

「きずな」は元産婦人科医院でしたので、個室が6室、ツインの部屋が3室と合計12床のベッドが設置されています。個室にはトイレ、冷蔵庫、洗面台も完備され、プライバシーも守られ、気兼ねなく安心して休むことができます。沐浴室も完備され、乳幼児は、清潔な環境で過ごすことができます。ロビーやプレールームもあり、絵本や遊具も充実し、子どもたちが安心して遊べる空間があります。

待ちに待った開所の日、2か月と2歳の子どもを連れた母子を含めて2世帯が入所されました。2歳の子は、ショックとストレスで赤ちゃん返りをしていて、泣いたり駄々をこねたりで、母親の大変さが伝わってきました。豪雨の中、2人の子どもを連れて、着の身着のまま逃げまどわれた疲労と避難所生活のストレスで、親子ともに不安で一杯だったことでしょう。2か月の赤ちゃんは母乳も飲まず体重も増えず、汗疹も沢山でき、環境の変化が発育にも影響していました。

他にも若い女性で、災害により家屋が流され、近隣の住民も土砂や濁流にのみこまれ亡くなるなどの状況を目のあたりにして、PTSDとなり、夜も眠れず、食事ものどを通らず、仕事にも避難所にも行けずに、母親と一緒に「きずな」に避難してこられました。また、援護の必要な若い女性も母親と一緒に入所され、周りの目を気にせず安心して休めると喜ばれました。3世帯のべ200人が利用されました。

また、豪雨で地盤が緩んでいる地域では、豪雨の度に避難勧告が発令されていました。自宅に戻られていても、雨の音を聞くと怖くて夜も眠れなくなり、「きずな」に6か月の赤ちゃんを連れて避難してこられました。のべ16人の利用がありました。



## 2. 女性ボランティアの宿泊・拠点として

朝倉市の災害復旧・復興のために、猛暑の中、全国から多くのボランティアに駆け付けてきていただきました。中には経費を抑えるために、大部屋での雑魚寝であったり、車中泊をしたり、駐車場でテントを張り野営をしている方もありました。女性にとっては、性被害にも遭いやすいリスクも抱えています。そこで空き室を女性ボランティアに限定し、無料で提供しました。全国はもとより台湾からも女子大生がボランティアに訪れました。個室は冷暖房完備で冷蔵庫やトイレも完備し、共有の風呂もあり、「安心してゆっくり休むことができた」「疲れも癒されボランティアへの活力が養える」と大変喜ばれました。長期滞在や、リピーターでの利用も増え、のべ143人の利用がありました。「きずな」からボランティアセンターまでは、毎日、これもボランティアで送迎しました。

ボランティアの拠点として、炊き出しや弁当の配給、保育ボランティア・バルーンアートなどの専門ボランティアの申し入れもあり、ニーズとマッチングさせ、被災者につなぎ大変喜んでいただきました。



### 3. 相談事業

「きずな」では、平日の13:00～16:00に専門家による相談事業を無料で行って来ました。

- ・月・金曜日は、助産師による母子相談・デイケアサービス
- ・火曜日は、元養護教諭による子どもの心や生活相談
- ・水曜日は、人権擁護委員による女性の人権相談
- ・木曜日は、弁護士による法律相談

また、面談以外に電話での相談も行ってきました。

時間の経過とともに、避難所から仮設住宅やみなし住宅等に移られるに伴い、場所も仮設住宅の集会所に向いたり学童保育所を訪問したりと、被災者の状況やニーズに寄り添いながら場所や回数も変更してきました。



助産師による母子相談・デイケアサービスは、被災後の経過とともに疲労も蓄積されてきて、利用される方が増えてきました。

#### (1) 母子相談・デイケアサービス（県助産師会）

<寄稿> 被災された母子やご家族への支援を通して

福岡県助産師会常任理事 仲道由紀

「朝倉災害母子支援センターきずな」との出会いは、被災された母子やご家族の支援をしたいという一心で参加した7月24日開催の「九州北部豪雨支援者情報共有会議」でした。事務局の大庭さんと偶然にも隣席で、センターを立ち上げられることを伺い、すぐに協同をお願いし、助産師相談を担当させていただきました。その頃、避難所にも母子や家族の健康相談に入らせていただき、共同生活の中で女性や子どもの居場所は限られていることや周囲への気兼ねなどから疲労困憊している姿を目の当たりにし、少しの時間でも心身ともに安らぐことができる場所が必要であることを切に感じていたので、私達助産師にとって、この助産師相談は、ケアの在り方や対象者との向き合い方など大変考えさせられる経験になりました。

被災された母子やそのご家族への支援は、急性期だけではなく、時間が経過した後も心のケアが必要です。被災後の過程に寄り添い、見守り続ける存在がいることで、被災を乗り越えることができ、先の見通しが立ち始め、子育てにも自信を持つことができるようになります。まさに「きずな」は母子やご家族の安らぎの場所になっています。

さらに母子に寄り添える存在になるために、今回の支援活動での経験を踏まえ、今後も尽力していきたいと思っています。

<寄稿> 《母も子も笑顔で子育て・子育て》みんなで街づくり

助産師 松元久美子（県助産師会会員）

私は助産師として市の委託を受け仕事をしています。災害直後、母子のことが気にかかり、市職員の方に避難所に小さいお子様を抱えた母子はいないかを尋ねましたが、避難所にはあまり目につかないとのことでした。夫亡き後、閉院しておりました産婦人科診療所の建物を母子の避難、保護に役立てたいと考えていました。

豪雨災害発生から10日後、市議の大庭きみ子さんより「行政も色々な対応で母子に手が回らない状態で、母子災害支援の拠点として建物を使わせてもらえないか」と個人的にご相談を受け、早速、開設準備に取り掛かり、まだ態勢不十分なまま8月1日に「朝倉災害母子支援センターきずな」がオープンすることになりました。その後、ボランティア会場で、災害後より避難所を廻り「女性・母子相談」の被災地支援をしていた福岡県助産師会の会員である仲道由紀さんと大庭さんとの出会いがあり、福岡県助産師会のご協力を頂き【助産師相談】を8月から毎週月曜と金曜13:00～16:00に実施することになりました。（10月からは週1回金曜のみ）

オープン初日に入所を希望されたケースは、里帰り出産で、反復帝王切開後の2歳男児と生後61日目の乳児を抱えた母子で、自宅に豪雨が流れ込み、着の身着のまま家族と共に避難し、避難所生活をされていました。7月下旬に私が乳児訪問をしたところ、2歳の子が泣き叫び母親から離れようとせず、授乳もままならない様子で、周囲の避難者の方々も大変な環境と思われました。母親も当然周囲への気遣いもあり、2歳の子も住環境や妹の存在などの環境変化と年齢的にも難しい時期で、このままの環境では母子にとっても他の避難者の方たちにとっても良くないと思い「きずな」への入所をお勧めし、母親の実母や実妹と共に入所となりました。しかしながら、この母親がこの家族の中心的存在となっている様々な事情により、4日間の入所となり支援の難しさを感じたケースでした。

そのほか、産後ケアとしてサポートした方は、被災していない義兄宅に避難したものの気遣いから産後鬱の状況に陥ってしまったケースや、すでに両親が他界しており、育児支援をできる親族もおらず不安を抱えているケース、井戸水が濁り入浴もままならず、赤ちゃんは清拭だけで済ませていたケース、鬱状態にある中、夫の理解が得られず産後クライシスの状態のケースなどです。

また、通常の乳児検診や育児相談の開催場所が避難所として使用され、中止や規模の縮小をされていたため、乳児訪問先や母乳相談時に気になる方に「きずな」への来所を案内して相談に対応したケースもあります。

それぞれのケースに応じて、発育計測、沐浴、乳房マッサージ、仮眠休息、授乳介助、身体のタッチケアや傾聴をし、必要に応じてアドバイス等を行い、今の状況や助産師の実施ケアの対応記録をし、次の担当者にも状況が解るようにしました。利用者の方には、いろいろな人に見守られているという安心感を得てもらうため、日により担当

制にし、対応する助産師も変え、時間の許す範囲ゆっくり過ごして頂きました。

初めは、「来ませんか？」と声をかけられてから来ているという感じでしたが、しだいに自ら、「次も来ます。」「来ていいですか？」「いつまでセンターは続けられるのですか？」「話を聞いてもらうだけでも心が休まります。」と言って頂くようになりました。お母さんの笑顔が来所の度に増え、笑顔で母子共に帰られることで、少しずつ自立に向けて前進されていることを感じる事ができます。

このたびの災害母子支援センターの発足・運営には、地元を始め、遠方よりボランティアとして多くの方々にお世話いただき、また、福岡県助産師会のご支援に心より感謝と敬意を表したいと存じます。人とのつながりの大切さを改めて痛感いたしました。

また、「災害母子支援センター」という拠点的なものは、東日本大震災、熊本震災でも立ち上がらなかったということでマスコミの関心も深く、様々な団体の視察もたくさんありました。朝倉市に自主的にこのような活動を立ち上げることができる《市民力》があるということはとても素晴らしいことで、このセンターの活動を無駄にせず、「子育て支援の街」として産後ケア事業を含め、今後の朝倉市復興と将来に向けた街づくりにつなげて頂きたいものだと強く思います。

人と人がつながる。行政がつながる。人と行政がつながる。近隣の自治体がつながる。【つながる】ことで、住民のニーズに基づき費用対効果をもたらす《より良い街づくり》ができると確信しています。

## <寄稿> 母子相談から

助産師 銭花志信（日田市宮原レディースクリニック師長）

今回の豪雨災害は産後の母親のストレスを大きくさせるものでした。心の支えとなる家族もまた被災され、生活の不安定な状況の中、赤ちゃんの夜泣き、慣れない子育ての悩みから、不眠、食欲不振、疲労感などの体の不調を訴えた母親が来所されていました。

「きずな」では、母親たちがゆっくりとした時間を過ごし、心を落ち着けることができるスペースになるように心がけて母子相談を行っています。赤ちゃんの体重を測ったり、沐浴、おっぱいマッサージをしたり、母乳や育児に関する相談を受けたりしています。時にはハンドマッサージをして母親のリラックスを促しながら不安や悩みに耳を傾けています。

「きずな」は、ママたちの心の居場所、里帰りの家、安心してケアが受けられる『ほっとスペース』です。半年が過ぎ、少しずつママと赤ちゃんの笑顔がふえてきました。

母親が心身ともに健康な状態で育児に向かい合うことが、赤ちゃんの成長にとっても大切です。助産師として母親に寄り添い、子育てのアドバイスをして、母親の精神面を支えることが、何よりも大切な支援だと考えています。被災地ではこのような支援が必要であり、今後も継続されることを望みます。

## (2) 子どもの悩み・生活相談（元養護教諭）

被災地の子どもたちは、豪雨や濁流で壊され、流されていく、変わり果てた情景を目の当たりにしました。直接に家を失った子どもだけでなく家はかろうじて被害をまぬがれた子どもたちも地域内の全ての子どもたちの心に、大きな傷跡を残していきました。

子どもたちは、早まった夏休みに入り、地域の学童保育所で過ごす時間が増えてきます。特に、怖い経験をした子どもたちがどのような生活の様子なのかをまずは知り、不安があれば相談に応えたいと思いました。

① 8月1日（火）「きずな」を開所し、8月はセンターで毎週火曜日の9:00～16:30までを子どもの悩み相談日としました。しかし、相談は1件だけでした。

② 場所的なこと、時間的なことを配慮し、被災地の学童保育所を廻る様に変更しました。また、訪問の際には、大川市の小児科医、酒井祐子さんにも、ボランティアで同行してもらいました。

＜学童保育所まわり 16:00～17:00＞

9月 5日	久喜宮学童保育所	9月26日	大福学童保育所
9月12日	杷木学童保育所	10月 3日	三奈木学童保育所
9月26日	朝倉東学童保育所	10月10日	蜷城学童保育所
9月26日	〃 学童スタッフとの連絡会	10月17日	杷木学童保育所

朝倉地域の学童保育所2か所、杷木地域2か所、甘木地域2か所、計6か所を毎週火曜日に2～3人で訪問しました。学童保育所によって、参加している子どもたちの数や施設の広さやスタッフの人数に違いがあり、学習室やプレイルームや休息室が十分に保障されていないところやトイレが離れた場所にあるところもありました。そのような環境の中で、指導員のスタッフは被災の状況を考慮しながら、子どもたちに寄り添って活動されていることがよくわかりました。1か所だけ、一緒に訪問された小児科の先生からは、子どもの姿で気になったことがあるということで、スタッフとの連絡会を持つことができました。

スタッフ手作りの大型木製ゲームの遊具も用意されていて、工夫されたこともわかりました。しかし、災害のために、今までとは違う学童保育所の子どもたちも合流していて、未だ馴染めずにいる子どももいるので、新しい仲間づくりが必要ではないかと思われました。当面は、落ち着いてすごせるスペースを確保して、安心して生活できるような環境をつくってもらいたいと思いました。

③ 学童保育所を一巡して、子どもたちの様子や生活環境の問題点などが見えました。しかし、新しい環境に慣れ、友だちづくりをしていくには時間の経過が必要ではないかと判断し、学童保育所の訪問は中止し、再び「きずな」での相談活動に戻しました。



**<寄稿> 「きずな」との出会い**

小児科医 酒井祐子（大川市 酒井小児科内科医院）

九州北部豪雨のあと、新聞で偶然目にした「災害母子支援センターきずな」の記事を読んで、「きずな」を直接訪問させていただいたのが最初の出会いでした。私は、福岡県内の小児科の開業医として勤務しており、何かお役にたてないかと思っの訪問でした。

8月、9月、10月と子どもの心や生活の相談の日にお邪魔したり、プレーパークでの活動に参加させていただいたり、学童保育所の訪問をさせていただいたりしました。

プレーパークに行く時、各地区の学童保育所に行く際は、初めて通る道がほとんどで、災害の規模の大きさに言葉を失いましたが、それに反して子どもたちは明るく、保護者の帰りを心待ちにしており、自由に楽しく過ごしている様子でした。時に対応が難しいほど元気の良い子どもたちにも会いましたが、その時はその対応について、再度、学童の先生たちと話をさせていただきました。

特別な事態でありながら、いつもどおりに子どもたちに接することの大切さを学んだ気がします。まだまだ復興への道は遠いと報道されています。私は子どもたちの心の傷の多くを理解することができなかつたかもしれません。時間が経ってから子どもたちの精神的なダメージがはっきりすることもあるようです。子どもたちの、また、保護者の方々の健やかな回復を心よりお祈り申し上げます。



**(3) 女性の人権相談（朝倉人権擁護委員協議会）**

母子と女性に特化した支援センターですので、事業の一つとしてとりいれ、最初は週に2回開きました。被災者の気持ちに寄り添い、心を和らげてもらおうという目的で行いました。

開所と同時に入所された母子で、娘さんは災害を目の当たりにし、それがトラウマとなり、もはや仕事には行けない状態でしたが、日を増すごとに少しずつ笑顔も見られるようになりました。またお母さんは、災害のことやこれからの生活のこと等を次第に話されるようになりました。

このように、毎日顔を会わせることで、ひと時であれ心の「安らぎ」が生まれてきたように思います。しかし、特に被害がひどかった杷木地区は「きずな」のある甘木地区からは離れており、自家用車も失くされて思うようにいかないのか、なかなか入所者以外の相談はありませんでした。ただ、電話相談では災害をきっかけに起こった夫から妻へのDV相談が1件ありました。

その後、年が明けた1月からは仮設住宅へ相談場所を移し、弁護士さんと共に、女性のみならず全般的な生活相談として行うことにしました。生活の場に出向いたことで相談も増え、リラックスモードの中ですすめることができ、少しはお役に立ったかなと思っています。

生活や心の問題はすぐに解決できるものではありません。被災者の皆さんは、仮設住宅やみ

なし住宅が終了する2年後の生活に不安を持っている方が多いように見受けられます。そんな心の深い所に気づいていける私たちでありたいと、この相談も引き続き行う必要性を感じています。

#### (4) 法律相談（弁護士会奔流）

<寄稿> 「きずな」に関わって～被災地の法律事務所から

弁護士 池永 修（奔流法律事務所朝倉オフィス）

九州北部豪雨から早8か月が経とうとしています。

地元朝倉を襲ったこの災害に地域の法律事務所としてどのように向き合うべきか、一体何ができるのか、あれこれ悩みながらも法人内の弁護士やスタッフ持ち回りでボランティアに出向くことから始めました。そのような矢先に「きずな」が立ち上がり、相談業務を担当させていただける願ってもない機会をいただきました。

昨年中は、毎週木曜日に「きずな」で相談を行っていましたが、年明けからは隔週（第2・第4木曜日）仮設住宅の集会所に赴いて相談会を行っています。相談会には毎回多くの相談が寄せられ、弁護士が来ていると聞いて飛び込みで申し込まれる方もおられます。相談会には、「一体いつになったら戻れるのか、或いはもう戻れないのか」「仮設住宅はいつまで住み続けられるのか」「契約や家賃はどうなるのか」など、行政に相談しても一向に解消されない現在進行形の不安が多く寄せられました。

不安な気持ちで相談にこられた方が笑顔で出ていかれる姿を見送るときは、まさに弁護士冥利です。復興のその先に皆さんの笑顔が見えるまで、息の長い支援を続けていきたいと思えます。

## 4. イベント企画

被災者・支援者・見守っている周辺の人たちが集まり、学習や交流そして心のケアができる場をつくるために、月1回の講演会やコンサートを開催しました。10月からは、「ふくおか地域貢献活動サポート事業～朝倉きずなプロジェクト」として開催しました。

(1) 9月13日 「地域を支える人々の心のケア」というテーマで、福島県医科大学教授の前田正治さんの講演会を「きずな」にて開催しました。筑前町のボランティア団体との共催で、38人の参加がありました。甚大な被害に見舞われた地域の復興に自身の家庭生活を犠牲にしながら日夜奔走する自治体職員の皆さんの心の疲労とそのケアの重要性について、東日本大震災・原発事故等の事例をもとに講演してもらいました。職員が倒れては復興もすすみません。感謝の気持ちを伝えることで、復興への道を共に歩いていくことの大事さを考えさせられました。



(2) 10月26日 「みんなで話そう～子育ての困りごと～」というテーマで、飯塚市立病院小児科医の穂吉（あきよし）秀隆さんを囲んでの懇談会を、「きずな」にて開催し、18人の参加がありました。子育ての悩み、近所の子どもへの接し方等が話題となり、和やかな懇談となりました。また、子育てに関する書籍をいただき、「きずな」来訪者に貸し出しを行いました。



(3) 11月4日 中国楽器二胡奏者の趙萍（ちょうぴん）さんと生徒さん3人を迎えて、「心の癒しコンサート」を開催しました。49人の参加がありました。「また君に恋してる」や「涙そうそう」等の演奏を聴きながら、二胡の独特な優しい素敵な音色に惹きこまれ、ひと時の安らぎを感じることができました。また、ご自分のCD 30枚のプレゼントもありました。



(4) 12月3日 「きずな」の開所から5か月、活動を通してたくさんの人たちとのつながりができましたが、お互いに顔を合わせる機会が少なかったことから、被災者・支援者・地域の人々の交流の場として「きずなまつり」を開催しました。10時～15時の間に約90人の参加がありました。「きずな」の駐車場にテントを張り、おでんやちゃんこ鍋、おにぎりなどを一緒に食べながら、おしゃべりをしました。ロビーでは、深堀頼子さんによる電子ピアノ演奏や徳永扶美子さんによるフルート演奏を楽しみました。また、希望者は、日本セラピューティック・ケア協会の協力により、手や肩や足の施術を受け、心も身体もリラックスする時間を過ごすことができました。そして、帰りには支援物資を渡しました。



(5) 1月28日 「今、大切にしたいこと」のタイトルで、バンド「未来塾」の田中もとゆきさん・小山啓一さんによる新春コンサートを、杷木仮設住宅の集会所にて開催しました。仮設住宅で暮らしている方々38人の参加がありました。田中さんが教員をされていた頃に出会われた子どもたちのこと、そこで感じた思いを歌と演奏にのせて私たちに届けてくれました。また、「野に咲く花のように」「手のひらを太陽に」「てのひら」「花」をみんなで歌いました。声を出すことで気持ちが和らぐようでした。





(6) 2月25日 「特定非営利活動法人住みよいあさくらをめざす風おこしの会」との共催で、第27回風おこしフォーラム「災害と男女共同参画」において、「復旧・復興と住民の力～これからのコミュニティ再生に向けて～」というテーマの講演会&パネルディスカッションをフレアス甘木にて開催しました。まず、大庭事務局長が「きずな」の活動報告を行い、「公益財団法人せんだい男女共同参画財団」理事長の木須八重子さんの講演の後、松末地区コミュニティ事務局次長の堀真由美さん・黒川復興プロジェクト代表の柏田智さん・木須八重子さんをパネリストに、朝倉市ボランティア協議会会長の師岡愛美さんをコーディネーターとしてパネルディスカッションを行いました。朝倉市内外から120人の参加がありました。地域住民のみなさん、行政関係者、ボランティア関係者等が集まってくださいました。木須さんは、東日本大震災の経験から、災害からの復旧・復興、そして災害に強い町づくりには女性の力が不可欠であり、男女共同参画の視点が求められていることを話されました。堀さんは災害時の様子、避難の経過等、柏田さんは自分たちにできる地域復興のとりくみ等を話されました。今後の復興には多様な視点での住民の力が重要になってくることを考えさせられました。



(7) 3月4日 「あなたと仲間への応援歌～癒し・きずな・明日へ～」というテーマで、山口裕之さんのオカリナ演奏と映像を交えての語りの会を、杷木仮設住宅の集会所にて開催しました。仮設住宅で暮らしている56人の参加がありました。オカリナの音色とともに、人権・共生・平和のメッセージを届けてくれました。優しい音色に包まれて、明日への思いを巡らせる時間を過ごすことができました。また、「にがおえ工房」の野上まりさんによる似顔絵のプレゼントもありました。





## 5. 支援物資配布

「きずな」に全国から多くの品物が届けられました。「きずな」は仮設住宅から遠いので、被災者の方はなかなか支援物資をとりに来ることができませんでした。そこで、直接支援物資を仮設住宅の集会所に持ち込みました。どの会場もスタート時刻には多くの人が集まりました。30分間で、あっという間に3分の2ほどの品物がなくなりました。寒い冬に備えてニーズがあることを実感しました。



### 頓田仮設住宅集会所

11月13日

1月18日

3月12日

←準備OKの会場です  
セーター・スラックス  
マフラー・帽子など



日用品もありますよ



3月には、春物をとどけました。とても喜ばれました。

### 杷木仮設住宅集会所 →

12月22日

2月15日

3月26日

ニーズに応えられないもどかしさがあります。下着の要望あり。最後の配布日に届けました。



### 12月3日「きずなまつり」 ↓

「きずな」の玄関前で行いました。



事前にチラシを作成し、声をかけながら一軒一軒回りました。また、みなし住宅には情報が届きにくいため杷木地域放送を入れてもらいました。「きずな」のスタッフだけでなく、仮設住宅の世話人の方々に応援していただいたおかげで実施することができました。

人波が去った後に来られた方は、ぼつりぼつりと自分のことを語られます。「正月を越せばなんとかなる」という言葉にずっしり重いものを感じます。「近くまで持ってきていただいて助かりました」という声に、仮設住宅まで直接出向いてよかったとほっとします。全国からの物資の支援に感謝いたします。

← 「今日も元気です」と、黄色い旗を立てています。

## 6. プレーパーク「冒険遊び場」のとりくみ

私たち「すくすく朝倉の未来隊！」は、2017年度に朝倉市の提案公募型協働事業で採択され、プレーパークへのとりくみを始めました。その矢先の九州北部豪雨災害で、朝倉市は甚大な被害に見舞われました。これは「子どもの遊び場づくり」どころではなくなってしまった……。これが率直な感想でした。災害が起きてしまった今、「遊び場を作りたいなんて言ったら被災者の方にどう思われるだろうか」「行政もパニックになっている状況の中、今年は中止したほうがよいのではないか」と思い、プレーパークへのとりくみを一度は諦めようとしていました。

でもそんな時、いち早く「朝倉災害母子支援センターきずな」が立ち上がり、母子支援の必要性を身近で感じ、今こそ子どもの遊び場が必要だと思い直しました。全国のプレーパーク関係者やボランティア団体など、たくさんの方々のご協力やご支援のおかげで、「きずな」と共催で朝倉市で初めてプレーパークを開催することができました。



寿楽荘にて 2017.8.11

**子どもの心の傷は、遊びの中で癒される。遊びとは生きるということ。**

避難所で過ごしていた子どもたちが、「久しぶりに笑った〜！」「久しぶりにあそんだ！！」と笑顔で一日過ごしている姿を見て、プレーパークの必要性を心から感じました。

災害後、そのまま夏休みになった朝倉市の子どもたち。公園や学校が土砂や流木置き場になっていき、遊ぶ場所もなくなっていたので、夏休みには熊本益城町からお借りしたプレーカー（おもしろカー）と共に8回の遊び場づくりを行いました。今では月1回、プレーパークの開催を行っていて、毎回100人を超える参加者でにぎわっています。これからも子どもの笑顔あふれる場所として、遊び場づくりを続けていきたいと思っています。



杷木中学校にて 2017.8.27

すくすく朝倉の未来隊！  
代表 山下千春



久喜宮小学校にて 2017.12.27



2017.11.19



2017.11.19

平塚川添遺跡公園にて



## Ⅱ 各方面からの支援について

### 1. 「きずな」の運営にかかわったボランティアスタッフ

災害発生から10日後の7月15日に、〇女性会議の朝倉支部会員大庭きみ子議員から「母子支援センターを立ち上げたい」と相談があり、福岡県本部としても何か支援したいと考えていたことから、バックアップ体制をとることを快諾しました。

7月20日の準備会には、当該支部3人、県本部3人、朝倉市周辺5自治体会員議員6人に呼びかけ、8月1日の開所に向け話し合いました。その中で、役員体制については、朝倉市在住の『『特活』住みよいあさくらをめざす風おこしの会』の代表であり、人権擁護委員である星野洋子さんに副代表を呼びかけ快諾を受け、理事会・事務局体制を確立することができました。

準備会から開所するまであまりに時間がなく、1日も早く開所することが重要であることから、〇女性会議福岡県本部全支部からの支援を中心にすすめることしました。8月は、1支部月2回の応援を要請し、大牟田支部から門司支部まで窓口・電話対応に支部単位でシフトについてもらいました。



窓口・電話対応に最低2人（10時～16時）、被災者の受け入れや被災現地へ出向く女性ボランティアの宿泊で、当直が2人体制（16時～翌10時）が必要でした。そこで、毎日を埋めるシフトづくりが始まりました。事務局4人が週3日の割合で当直に入り、その4人が相方を連れてくることで当直も何とかスタートしました。しかし、当直担当が、仕事しながら16時に「きずな」入りするのは大変厳しく、16時～20時のシフトについてくれる人を毎週1日（7組）体制でお願いすることになりました。9月後半ころから、「風おこしの会」「北京 JAC ふくおか」「子育て支援キッズ」「ふくおか市民政治ネットワーク」など、諸団体が当直を受けてくれ、シフトがゆるやかになりとてもありがたいことでした。

このような支援センターを運営するのは事務局全員はじめての経験で、運営しながら必要なことにぶち当たり判断していくという、「自転車操業」的であったことは否めませんでした。

9月になる頃には、「きずな」の存在を知った地元の人たちが様々な時間帯で支援に来てくれるようになりました。そこから、細かい時間を区切ったシフト体制

を組み、運営に関わってくれる人の輪が広がりました。たとえば、8時～9時、10時～12時、11時～15時、13時～16時というように、自分たちの状況に応じて申し出があり、11月になる頃には〇女性会議も、全県の支援から周辺支部にシフトを移すことができました。

災害ボランティアセンターが、10月末をもって閉鎖されることに伴い、「きずな」での女性ボランティアの宿泊受け入れも終了することになりました。また、被災者の入所者もみなし仮設住宅へ引越しが決まり、「きずな」は当直体制を終了することになりました。当直が終了した11月から12月は土曜日を休館とし、1月から閉所の3月30日までの土・日・祝日を休館としました。怒涛のように過ぎた8か月間のスタッフは、総数のべ1,033人となりました。

<ボランティアスタッフ数>

月	人数	当直数
8月	188	43
9月	251	55
10月	160	34
11月	115	—
12月	105	—
1月	65	—
2月	64	—
3月	85	—
合計	1,033	132

## 2. 避難訓練

このような施設では、二次被害を防ぐため避難訓練は必須です。9月29日、スタッフと「きずな」に宿泊している被災者全員で、開所当初からのスタッフである消防士の伊是名一美さん指導のもとつき、避難訓練をしました。マニュアルに従い、通報、避難誘導、書類持ち出し、消火訓練を行いました。



### <寄稿> 被災時に必要な癒し

北九州市消防士 伊是名一美

豪雨が続き私の住む北九州市でも多くの地域に避難者が出ていました。被害の大きさが徐々に明らかになり、土砂崩れや氾濫した激流の流木、倒壊した泥にまみれた家屋の映像のニュースが続きました。

同じ県内での大災害に、可能な範囲の協力ができないか思いあぐねていた頃、横浜にいる大先輩から知らせが入り、元松元産婦人科医院へ訪ねて行くことに……。これが「きずな」との出会いとなり、朝倉の皆さんとの出会いとなりました。

私は当初、災害ボランティアと言えば、体力の限り復旧作業を手伝うことしか考えが及んでいませんでしたが、「きずな」に集まった女性有志の方々は、災害復興で後回しにされてしまいがちな母と子のケアに視点をおき、行政の隙間を縫う様に活動を広げ、地域に定着させていきました。開設から一か月経った頃には、各避難所や保育施設等に「「きずな」です！」と言えば行事案内など配布物を快く受け取って頂けるようになっていました。「きずな」の活動ボランティアが皆、汗を流しながら何度も地域を回り、少しずつ積み上げた信頼関係だと感じました。

「きずな」は更に、無料で災害ボランティアの宿泊や一時的な女性や母子の避難施設としても運営していました。宿泊を伴う施設であるため、利用者が安心して利用できる万全の配慮が必要でした。消防士の私が少々力になれたことと言えば、施設の防火管理面について管轄する甘木・朝倉消防本部の職員の方々とも連携ができたことや「きずな」ボランティアの総動員で消防訓練を実施できたことです。この消防訓練の避難訓練では、消防士の後輩も動員し、一時避難されている方も快く参加していただきました。訓練後は熱心な質問が飛び交う等、私も印象深く心に刻んでいます。

台風時期が過ぎても、赤ちゃん連れのお母さんたちは、「きずな」に癒しを求めて集うようになりました。優しいピンク色の建物は、母子支援センターの名前にすっかり馴染み、元産婦人科医院という安心感と相まって様々な方が笑顔で集う憩いのスペースとなりました。

地域全体の復興への道のりは、まだまだ続いているところですが、陽だまりのような温かい「きずな」のボランティア活動に関われたことには、私自身多くの気づきがありました。お世話になった「きずな」ボランティアの皆様、朝倉の皆様から感謝します。そして今後も復興に向け応援していきます。



### 3. 支援金と助成金および支援物資

「きずな」の施設は、松元久美子さん（元産婦人科）の好意により無償提供です。しかし運営資金については、スタートから目途が立っていたわけではなく、歩みながらの「個人や団体からのカンパ」「助成金の申請」頼みでした。結果的には、多くの方々や団体からのご支援で、当初の目的の3月まで運営することができました。4月以降も「朝倉きずなプロジェクト」として運営していきます。残った支援金は、母子支援のために、引き続き使わせていただきます。

支援金については、様々な方法でご協力いただきました。最初にしたことは、スタッフが所属する団体の集会などで、「きずな」の活動を紹介しながら、会場でカンパをお願いしました。また、各地域での街頭行動のときに、「きずな」のこともアピールしながら「カンパ箱」に入れてもらいました。17会場で協力いただきました。



様々な集会でもカンパを呼びかけました。

そのうち、「パンフレットを見た」「新聞を読んだ」「人づてに聞いた」など様々な個人や団体から、直接持ってこられたり口座振り込みされたりして、多くの支援金をいただきました。開所当初は福岡県内からの支援金が多かったですが、各団体が、新聞や広報誌に「支援金のお願い」を載せていただき、全国から届くようになりました。164団体・173個人から届けていただきました。

また、助成金については、「日本財団」「ふくおか地域貢献活動サポート事業」「地方自治センター」「ふくおか市民政治ネットワーク」などに申請し承認されました。多額の資金をいただき、事務局運営やイベントの費用などに使いました。

各地区のライオンズクラブからの炊き出し、また地元のライオンズクラブからは、光熱費、プリンター、レンタカーなどを支援していただき、日々の活動がスムーズにすすみました。国際ソロプチミスト各支部からの支援やクラウドファンディングも企画していただき、大変助かりました。ほかにも、日曜雑貨用品全般にわたり、さまざまな団体からご支援いただきました。



日本ハビタット協会・あすばる館長より支援金を届けて頂きました。



国際ソロプチミスト(福岡南・華)より支援金を届けて頂きました。



大学生の皆さんから、集めた支援金を届けて頂きました。

## 4. 視察

団体・個人合わせて53回、総数393人の視察がありました。「災害時の母子支援施設」は、全国で初めてということもあって、視察が多かったようです。議員や行政関係、地域の女性ネットワーク、病院や助産師、大学、NPO団体など多種多様な方々の視察がありました。

「きずな」のロビーで、事務局長が掲示板に貼った様々な活動の説明をしたり、被災地に連れていき説明を行ったりしました。視察に来られた方々が広報してくださり、さらに支援の輪が広がっていきました。



全国から「きずな」の視察に来られています。

## Ⅲ 情報発信とマスコミ

「きずな」独自の情報発信は、ホームページ、リーフレット、Facebookでした。特にFacebookには、事務局長が活動内容を当日にアップし、情報が伝わりました。

1か月の事業内容を書いたチラシやイベントチラシなどは、避難所、仮設住宅、保育所、幼稚園、学童保育所、コミュニティセンター、小児科医院、産婦人科医院などに、各地域の担当を決めて毎月1,500枚配布しました。

テレビ、新聞、ラジオ等でとりあげられたことで多くの人に知られ、「きずな」の支援につながりました。

### <テレビ・ラジオ>

- ・NHK総合
- ・KBC九州朝日放送
- ・FBS福岡放送
- ・RKB毎日放送
- ・RKBラジオ

### <新聞>

- ・西日本新聞
- ・朝日新聞
- ・毎日新聞
- ・読売新聞
- ・日経新聞
- ・共同通信社



## Ⅳ 課題と今後に向けて

昨今、全国いたる所で災害が発生し、いっどこで災害がおきてもおかしくない気象状況となっています。日頃から災害時に備えて、防災組織の中にジェンダーの視点で参画し、防災計画を備えておくことが重要だと思います。

「きずな」は災害から25日目で開設しましたが、災害直後にはもっとニーズがあったはずです。被災された母子の方は、避難所に行こうという選択肢はなかったとも言われています。被災後、車中泊をしながら親せきや知人に連絡をとり合い、自主避難をされています。また、避難所からいち早く退所されるのも、小さい子ども連れの家族だとも聞きます。それだけに、避難所は小さい子ども連れの家族にとっては生活しづらい環境です。

まずは、母子支援センターの拠点になるところを一日も早く開設することが重要ですが、新たに設置するには大変なエネルギーがいります。平常時から、災害が起きた時に母子避難所となる場所を考えて、協定書を交わしておくなどの備えをしておけば、いち早く母子を安全な場所に避難させることができます。3日以内に、遅くとも1週間以内がベストだと考えます。平常時から緊急時の母子避難所として明示してあれば安心です。

また、妊婦や産後、新生児等は専門的配慮が必要です。災害後は母親には6倍～7倍のストレスがかかるといわれています。短期間でも母親の身体や心の回復・ストレスの軽減に努め、健康をとり戻すことが大事であると思われます。しかし、被災時には「家族一緒になければ」という「家」意識が強くなりがちで、「きずな」においては、母子だけ別に避難することに家族の抵抗がありました。子どもの最善の利益と母親の心身のケアを最優先にするという、日頃からの啓発と家族の理解と協力が必要です。

災害後に自主避難されていた方が、時間の経過とともに疲労やストレスが蓄積されてきて、母子相談やデイケアを利用されています。また、生活や経済的な心配もあり総合的な問題解決が心の安定につながっていきます。そのための様々な専門分野の方との連携の必要性も見えてきました。被災者を中心に地域が連携し、つながって支援していくことが大事だと考えます。

2018年3月30日で、「災害母子支援センターきずな」としては閉所しました。しかし、新たな「母子支援センター」（朝倉きずなプロジェクト）として、母子相談やデイケア事業、弁護士・人権擁護委員の生活相談や講演会・プレーパーク等は継続して行っていきます。これからは地域の社会資源として、誰でも必要な人が利用できる母子支援センター（産前・産後ケアハウス）として、持続可能な運営と体制づくりをめざしていききたいと思います。



2018年3月30日閉所式



東京から(秦 好子さん)もお祝いにかけていただきました。



＜寄稿＞ 次のステージのきずなへ

小児科医 穂吉秀隆(飯塚市立病院)

かつて甘木市に住まい、今はなき県立朝倉病院に勤務していた関係上、ニュースで災害母子支援センター立ち上げの話やじっとしていられず、比較的早期に連絡を取らせて頂き現在に至ります。といっても、何かお役に立てたというよりも、研修会やミニコンサートに参加させて頂き勉強させて頂いたというのが実情で、逆に申し訳なく思っています。

折角発言の場をいただきましたので、小児科医の観点から今後の展望を述べてみたいと思います。あくまで他所者の戯言ですので、その程度に受け止めてください。

今後を考える上で、2つのポイントを押さえる必要があります。

まずは発端となった災害支援について

被災自治体内部の話で考えると、今後の被災者の中でも格差が広がっていくことと、問題が奥深く潜在化し把握が困難になることが予測されます。支援にあたる人たちをサポートする必要など、これまで知られていない問題点と既知の問題点とが複雑に絡み合ったものになることが予測されます。まだまだ他の被災地での経験と照らし合わせる作業が必要なのと、一見問題ないように日々の事柄に対する小さな違和感を見逃さずに感じ取れる感受性が重要になります。その違和感を共有できる仲間もしかりです。

全国でも極めて珍しい母子に特化した支援のあり方の経験の蓄積を、次の被災地のために活かしていくことも必要になります。これは有形無形ともですので、記録に残すだけでなく、次の「災害母子支援センター」へのサポートをどうするのかを、今から考えていく必要があろうかと思えます。

次に災害の文言の取れた母子支援のあり方について

現在、色々な場所で多職種連携の重要性が説かれ、様々な先進的な取り組みが行われつつあります。しかし、朝倉地区に関して言えば、医療面だけをとったとしても数は充足しているかもしれないが、連携が図られているとはおよそ言い難い状況であると思えます。その点をつないで網を紡ぎあげる作業が必要です。それは子どもを中心とし、疾病を対象とする医療・保健・福祉だけではなく、教育や保育の現場との連携、ひいては子育て支援の観点からの雇用や法整備の問題まで含む幅広い分野の有機的なつながりを意味します。その網こそが「セーフティーネット」と呼ばれるものだと私は考えています。

上に述べた観点に立ち、お役に立てることがあれば今後ともお手伝いをさせて頂きたいと思えます。





# 資料編

## V 資料

1. 全体の利用・活動状況
2. 月の事業チラシ
3. 相談事業チラシ
4. プレーパークのチラシ
5. 利用者アンケート集約結果
6. 視察見学一覧表
7. 支援物資一覧表
8. 福岡県防災賞（知事賞）パネルと賞状
9. 新聞記事
10. 役員名簿

## 災害母子支援センターきずな 利用・活動状況

2018.3.30現在

被災者避難利用	3世帯	のべ	200人	10/31終了
避難勧告による緊急避難	1世帯	のべ	16人	
女性ボランティア宿泊		のべ	143人	11/5終了
母子相談ディサービス利用者	8世帯	のべ	102人	
相談事業			16件	
電話相談			1件	
訪問相談 県助産師会			8件	
学童保育所訪問相談	週1回	のべ	7回	10/17終了
プレパーク	8月11日	(金・祝)	寿楽荘	92
	8月20日	(日)	平塚川添遺跡公園	230
	8月23日	(水)	秋月学童保育所	30
	8月27日	(日)	杷木中学校	130
第3日曜日	9月16日	(日)	平塚川添遺跡公園	台風中止
第3日曜日	10月15日	(日)	原鶴温泉ハーブ公園	雨天中止
第3日曜日	11月19日	(日)	平塚川添遺跡公園	86
第3日曜日	12月17日	(日)	日吉神社	92
	12月27日	(水)	久喜宮小学校	30
第3日曜日	2018年 1月21日	(日)	平塚川添遺跡公園	118
第3日曜日	2月18日	(日)	平塚川添遺跡公園	124
第3日曜日	3月18日	(日)	平塚川添遺跡公園	215
	3月28日	(日)	甘木公園	308
			合計	1455
講演会 地域を支える人々の心のケア	9月13日	(水)	前田正治教授(福島医科大)	38
みんなで話そう子育ての困りごと	10月26日	(木)	穉吉秀隆医師(飯塚病院小児)	18
中国楽器 二胡演奏会	11月4日	(土)	趙萍(ちょうびん)先生	49
きずなまつり	12月3日	(日)	電子ピアノ・フルート演奏	90
新春コンサート	1月28日	(日)	未来座バンドコンサート	38
災害と男女共同参画講演会	2月25日	(日)	木須八重子さん(仙台)	120
ハートフルコンサート	3月4日	(日)	山口裕之さんオカリナ演奏	56
			合計	409
バルーンアート	9月16日	(土)	久喜宮学童保育所	23
	9月16日	(土)	杷木学童保育所	20
			合計	43
支援物資配達	11月13日	(月)	頓田仮設住宅	50
	12月22日	(金)	杷木仮設住宅	80
	1月18日	(木)	頓田仮設住宅	50
	2月15日	(木)	杷木仮設住宅	40
	3月12日	(月)	頓田仮設住宅	40
	3月26日	(月)	杷木仮設住宅	40
			合計	300

# 朝倉災害母子支援センター



## きずな



無料で行っております！  
ご利用ください

### 子どもの心や生活相談

毎週火曜日（午後1時～3時）  
6日・13日・20日・27日  
協力：元養護教諭

### 助産師による母子健康相談

毎週金曜日（午後1時～4時）  
2日・9日・16日・23日  
協力：福岡県助産師会

### 弁護士による法律相談・人権相談

第2・4木曜日  
（午後1時30分～3時30分）  
8日 杷木仮設住宅 集会所  
22日 頓田仮設住宅 集会所  
協力：奔流弁護士事務所・朝倉人権擁護委員協議会

### オカリナ演奏と語りのハートフルコンサート

オカリナ演奏聞きながら、楽しいひとときを過ごしませんか？  
におえ工房MAR Iより、参加者の方の似顔絵描いてもらえますよ～  
★3月4日（日）13:30～14:30 杷木仮設住宅 集会所

### プレーパーク ～子どもの遊び場づくり～

自分の責任で自由に遊ぼう！外あそびが生きる力を育てる！  
木工あそび、段ボールあそび、シャボン玉、ロープあそび、木登りなど・・・  
自然の中で、やりたい遊びをすきなだけやろう♪  
★3月18日（日）10:00～15:00 平塚川添遺跡公園 北広場  
持ってくる物：お弁当・水筒、シート、着替えなど各自必要なもの

### 支援物資の配布

きずなに届いた支援物資をお届けにいきます！  
春物などこれからの季節ものを受け取りに来られませんか？  
★3月12日（月）14:00～15:00 頓田仮設住宅 集会所  
★3月26日（月）11:00～13:00 杷木仮設住宅 集会所

## 2018年3月 きずな イベントカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
			1	2 母子相談 13:00～16:00	3 お休み	4 オカリナコンサート 13:30～14:30 杷木仮設住宅集会所
5	6 生活相談 13:00～15:00	7	8 法律・人権相談 13:30～15:30 杷木仮設住宅	9 母子相談 13:00～16:00	10 お休み	11 お休み
12 支援物資配布 14:00～15:00 頓田仮設住宅	13 生活相談 13:00～15:00	14	15	16 母子相談 13:00～16:00	17 お休み	18 プレーパーク 10:00～15:00 平塚川添遺跡公園
19	20 生活相談 13:00～15:00	21	22 法律・人権相談 14:00～16:00 頓田仮設住宅	23 母子相談 13:00～16:00	24 お休み	25 お休み
26 支援物資配布 11:00～13:00 杷木仮設住宅	27 生活相談 13:00～15:00	28	29	30	31	

### 朝倉きずなプロジェクト

朝倉災害母子支援センターきずな  
朝倉市来巻328-1 ☎0946-22-2078



# 弁護士・人権擁護委員による 無料巡回相談

※奔流弁護士事務所より、弁護士の先生・  
朝倉人権擁護委員協議会より人権擁護委員が直接出向いていきます。

**平成30年2月8日（木）**  
**午後1時30分～3時30分**  
**杷木仮設住宅 集会所**



**平成30年2月22日（木）**  
**午後1時30分～3時30分**  
**頓田仮設住宅 集会所**

## 相談内容・・・

災害に伴う相隣関係や不動産に関する問題（隣地から土砂や物が流れてきた、リフォームに関する問題等）、賃貸借契約、各種保険に関する問題、労働問題など。人権擁護委員による人権相談など。

**予約先 \* 朝倉災害母子支援センターきずな**  
**TEL：0946-22-2078**  
**090-3323-4726（大庭）**

当日のお申し込みも可能ですが、予約された方優先になります。ご了承ください。

主催：朝倉きずなプロジェクト



# プレーパークのチラシ



## プレーパーク



3がつのプレーパークでは  
おえかきテントがとうじょう!

プレーパーク(冒険遊び場)は、子どもが「遊び」をつくる遊び場のこと。そこでは火や水を使ったり、木に登ったり、何かを作ったり、のんびりしたり、自分の「やってみたいと思うこと」を表現していく遊び場です。のびのびと思いきり遊べるこの場所は、子どもが生きる力をはぐくむことを支えています。

### おそとで あそぼ



ケガと弁当は自分持ち  
自分の責任で  
自由にあそぼう



ダンボールのおうち☆すてきだね

### えのぐでかいたよ～たのしかつたね



春休みプレーパーク 甘木公園(3/28)  
参加者:308名

桜も満開で最高のお花見びより  
たくさんの参加者でにぎわいました  
イベント企画で「竹やきパン」も焼いたよ!



自分で焼いた  
パンはとくべつ  
おいしい!

まいつきだい にちようび かいさいちゅう  
毎月第3日曜日に開催中!!

日時 4月15日(日) 10時~15時

開催場所 平塚川添遺跡公園 北広場 (朝倉市平塚 444)

持ってくるもの お昼ご飯、水とう、きがえ、シートなど  
※よごれてもいい服できてね~!

雨天時は・・・平塚川添遺跡公園体験館前テラスで行います

【プレーパークでの火の使用は、特別な許可を頂いています】

杷木から無料送迎します!

9時30分 サンライズ杷木 出発

16時ごろ サンライズ杷木 到着

(帰りは時間が前後しますので、平塚川添遺跡公園を出発する時に保護者にお電話します)

送迎を利用の方は、4月13日(金)までに申し込みください! 080-2714-6175 (山下)

主催: すくすく朝倉の未来隊!

共催: 朝倉災害母子支援センターきずな

平成29年度提案公募型協働事業: 朝倉市と「すくすく朝倉の未来隊!」の協働で行っています

※本イベントは、フィリップ モリス ジャパン合同会社から日本財団「災害復興支援特別基金」に寄付された支援金を受けて実施しています。



## 女性ボランティア宿泊者 アンケート集約

- 1** 千葉県で医者をしています。長崎出身で年に2回帰省しますが、今回の大雨被害を知り、朝倉市へ行くことに決めました。56歳ですが、新聞に一人のおばあ様が泥出ししている姿に、少しでも役に立てればと・・・  
いつもボランティアに行く時は車中泊で、今回も覚悟していましたが、コンビニで「きずな」のみなさんのチラシを見て飛びつきました。まるでホテルに泊まってるようで申し訳ないようでした。おかげで翌日厳しい暑さの中でも泥だし作業ができました。  
あまり知られていないのが残念。もったいないです。TVや新聞には、被災地の現状と共に是非取り上げていただきたいです。
- 2** 温かいおもてなしありがとうございました。3日間快適に過ごすことができました。まだまだ大変な部分が沢山あると思いますが、無理せず進んでいってください。これからも応援しています。by fire woman piyo
- 3** 3日間、大変お世話になりありがとうございました。お陰様でゆっくり睡眠がとれたことで3日間活動に参加できたと思っています。私が役に立てたかは不明ですが、現地の方々やボランティアの方々などたくさんの人と出会えたこと、同じ目標に向かって汗を流し助け合っていること。私も皆様に大変よくしていただきました。感謝と感動です。
- 4** 災害ボランティアに参加するため福岡に来ました。初日の会場で「きずな」を知り、連絡させて頂きお世話になりました。初日からスタッフの皆様の優しさに触れ、ボランティアで少しでもお役に立ちたいと思っていましたが、多くの方の優しさに触れ思いやる気持ちが、こんなにも人の心をおだやかにしてくれるものなのか・・・と、私の心が助けられたように思います。ありがとうございました。
- 5** お世話になっております。無料なのに、以前よく利用していたホテルのトイレ・バスなし部屋よりずっと使いやすく快適です。
- 6** 最初チラシを見たとき、あまりの条件の良さに正直これ裏があるのでは・・・と心配したのですが、大丈夫でした。個室で送迎付きで至れり尽くせりですよ。なんかこんないいのかなと。ボランティアを続けていたら、又お世話になろうと思います。
- 7** とても親切にしてくださり、ありがとうございました。本当に助かりました。ゆっくり休めたので、今日は力いっぱい出していきます。本当にありがとうございました。山田
- 8** ボランティアで利用させて頂きました。多くの労いの言葉もかけて頂き、部屋の設備も充分でゆっくり休むことができました。改めて、それぞれにできる支援を考えていこうと思います。ありがとうございました。

- 9 大変お世話になりました。ありがとうございます。
- 10 近場にもかかわらず利用させて頂きありがとうございました。贅沢かつ快適に過ごさせて頂きました。感謝いたします。ありがとうございました。
- 11 3泊お世話になり誠にありがとうございました。とても快適に過ごすことができ、またスタッフの方の心遣いに感謝申し上げます。 神奈川きたボランティア 8/29
- 12 2日間快適に過ごすことができました。スタッフの方々もいつでも優しくてうれしかったです。ありがとうございました。
- 13 今回はボランティアが3日間中止で少々残念だったけど、その分きずな周辺の地理、建物について（どこにあるか等）わかって良かったです。ゆっくりさせて頂きありがとうございました。
- 14 9/11～9/21までお世話になりました！！ボランティアに参加しようと、最初はテントを張っていましたが、貼り紙や周りの方が教えてくださり「きずな」に泊まることになりました！スタッフの方、皆さん優しく、ボランティアに専念することが出来ました。本当に感謝です。
- 15 宮原レディースクリニックのにおい袋と三角クッション可愛いですね。におい袋と三角クッションはここでも使うけど、家でも使用させて頂きます。救援物資のレトルトカレー、二種類ともおいしいです。いつもありがとうございます。
- 16 お世話になりました！「きずな」のような宿泊できる場所があって、本当に助かりました。ありがとうございました。（秋月手すき和紙に）
- 17 土・日、ボランティア等お手伝いさせて頂きながら、勉強させていただけると幸いです。（中川 薫）
- 18 スタッフさんたちの対応がとても良かったです。わからないことがあると、すぐに対応してくれてありがたかったです。設備も良くて、本当に無料宿泊所なのか？と思いました。ありがとうございました。
- 19 お世話になりました。広島の子家庭の者です。被災時に母子に対して優しい頼りになるセンターを立ち上げられたと聞いて感激しました。ありがとうございます。わざわざボランティアセンターまで迎えに来ていただいて、大庭様ありがとうございました。夜に帰りが遅くなってお心配をおかけしました。まくらやお水まで用意していただきありがとうございました。
- 20 先日は、駅までお送りいただきありがとうございました。遅くなりましたが、秋物を届けます。寒くなったら冬物送りますね。では、みなさま、ご無理をなさらぬようご自愛のほどお過ごしください。（安田）



- 21 土日に宿泊した広島の浅尾幸枝に同行していた岩国の澤江と申します。昨日、無事、帰着しております。浅尾は、ご迷惑をおかけしたにもかかわらず、怒られもせず、とてもよくしていただいたことに驚き、感謝しておりました。彼女は新米ボラですが、きずな様や同宿の方とやボラ同志のふれ合いで、眼を見張るほど成長いたしました。あの後も津久見の困難現場の地下に潜って泥出しを頑張られましたよ。月曜日の朝には私にもお気遣いくださりありがとうございました。早期の復興を願っております。ボラへのご支援本当にありがとうございました。（岩国市 澤江学）
- 22 静かな環境でゆっくりと過ごすことができました。急な申し込みににもかかわらず、ご対応いただきまして、ありがとうございました。これからもよろしく願います。お体ご自愛ください。
- 23 当日の申し込みににもかかわらず、あたたかく迎えて下さりありがとうございました。気持ちよく過ごすことが出来ました。感謝いたします。皆様の生活再建に向けてお力になりたいと思っています。今後共よろしく願い致します。
- 24 このような綺麗で素晴らしい部屋をご提供くださり、感謝申し上げます。
- 25 3泊にわたり大変お世話になり、ありがとうございました。朝早くから夜遅くまで、いつも笑顔でご対応くださり、感謝です。ボランティアの疲れも皆様の笑顔でいやされました。
- 26 とても良くしていただき感謝しております。遠方からのボランティアは交通費が厳しく参加しづらいものですが、宿泊に恵まれて計5人の仲間を集めることができました。朝倉市という土地の美しさ、人のやさしさに触れ、また訪れたいと思っています。

## 母子支援ダイケアサービス アンケート集約

- 1 初めてきずなを利用させて頂いた時は、どんな所だろうと不安を感じていましたが、スタッフのみなさんはとても優しく、私の話を親身になって聞いてくださり、アドバイスや支援をして下さいました。7月の災害をきっかけに親子で、とてもお世話になりました。もしきずながなかったらどうなっていたのだろうと思います。災害支援に限らず、このような親身になって下さる方々、アドバイスを下さる助産師さんの助けは、子育て中のお母さんにとって強い味方です。今の世の中、必要だと思います。災害をきっかけに助けてくださる方がいる、この朝倉に、支援して下さいる全国の方に感謝します。いつも有難うございます。この支援は一生忘れないと思います。
- 2 災害を機に精神面の不安定さが体調にも出てしまい、つらかった時に、きずなのスタッフの皆様が、親身になって話を聞いてくださったり、母乳マッサージ等、身体面のケア、子どもの事など沢山サポートしていただき、おかげで元気になることができました。毎週金曜日が楽しみでした。有難うございました。

## 視察見学一覧

2018.5.31現在

日にち	団体名	人数	備考
8月11日	兵庫県湊川短期大学	12	兵庫県
8月17日	県議会議員(堤 かなめ、渡辺 美穂)	2	
8月18日	福岡県助産師会	7	
8月19日	大川市小児科医院	1	
8月14日	AIM国際ボランティアを育てる会	1	鹿児島県
8月20日	小郡、春日市議会議員	2	
8月20日	飯塚市立総合病院 小児科部長	1	
8月22日	福岡県女性議員ネットワーク(大田 京子県議他)	11	
8月25日	日本赤十字国際看護学院	1	
8月28日	全国フェミニスト議員連盟	5	東京都
8月30日	北京JAC九州in久留米	2	
8月30日	大阪府立大学(山路 教授)他	3	大阪府
8月31日	日本ハピタット協会福岡支部	3	
9月 4日	朝倉キッズケアセンター	10	
9月10日	参議院議員(神本 美恵子)他	2	東京都
9月13日	県議会議員(林 裕二)	1	
9月13日	北京JAC東京本部(船橋 邦子)他	3	東京都
9月14日	九州大学法学部	2	
9月20日	日本ハピタット協会東京本部3人とあずばる館長	4	東京都
9月23日	千葉県助産師	1	千葉県
9月26日	佐賀ボランティアキルターズ ピースワーク	4	佐賀県
9月27日	NPO法人ジェンダー平等市民の会	10	
10月 3日	大野城共生市民ネットワーク	27	
10月 5日	行橋市民生委員会	16	
10月 9日	大阪大学(大学院生)	2	大阪市
10月 9日	日本災害支援ボランティアネットワーク	1	兵庫県
10月 9日	NPO法人日本セラピューテック・ケア協会	3	
10月18日	ふくおか市民政治ネットワーク	10	
10月23日	国際ソロブチミスト甘木	3	
11月19日	福岡市中央区今泉2丁目自治会合同研修	56	
11月23日	国際ソロブチミスト長崎ガーランド	3	長崎県
11月26日	東箱崎校区女性協議会	32	
11月27日	国際ソロブチミスト浮羽	2	
11月23日	NPO法人有明支縁会(熊本県)	2	熊本県
12月 1日	福岡県サポート事業の現地調査	2	
12月 2日	山内智子さん他一行	7	
12月 4日	国際ソロブチミスト福岡南	7	
12月 8日	福岡県男女共同参画センター(あずばる一ん取材)	4	
2018年 1月23日	男女共同参画ネットワーク春日	17	
2018年 1月27日	糸島市人権・同和教育推進協議会	21	
2月 6日	岩手県釜石市ボランティアガイド会(横山 幸雄)	1	岩手県
2月14日	うきは市江南区コミュニティー女性部	13	
2月19日	筑前町役場企画課	4	
2月19日	衆議院議員(高瀬 宏美)	2	東京都
2月23日	高退教(志岐 玲子)	3	
2月25日	仙台男女共同参画財団理事長(木須 八重子)	1	宮城県
2月28日	国際ソロブチミスト華・福岡南	20	
3月 8日	大川女性ネットワーク	2	
3月15日	大川市ホットママファミリーサポートセンター	10	
3月26日	兵庫県湊川短期大学	15	兵庫県
4月24日	古賀市議会	15	
5月 8日	男女共同参画研修推進センター代表(浅野 幸子)ほか	4	東京都
	合計	393	

## 支援物資一覧

洋服類 マタニティウェア用品  
下着 防寒着  
マフラー 帽子 靴下類



化粧品類 石鹸  
紙皿類 湯のみ  
マグカップ



キルトマット おんぶ紐  
ベビー布団 ベビーカー  
ベビーベット ぬいぐるみ  
カレンダー 手作りトートバッグ  
三角クッション 香り袋  
ハーブ香り付きカード 丹前  
こたつ布団



紙おむつ(子ども・大人用)  
おしりふき 体ふき  
生理用品 タオル  
大判ハンカチ マスク  
雑巾 歯ブラシ  
トイレットペーパー ウェットティッシュ  
ティッシュペーパー ペーパータオル  
その他日用品



粉ミルク 離乳食  
インスタント食品  
コーヒー類 果物  
米 水 菓子 ジュース  
ペットボトルのお茶  
手作り弁当  
炊き出し(そうめん流し・かき氷)



パソコン プリンター  
ラジカセ 癒やしのCD  
ガスコンロ



おもちゃ各種 ぬり絵  
クレパス 折り紙  
滑り台 絵本  
筆記道具





## 福岡県防災賞（知事賞）パネルと賞状

2018年3月27日付  
西日本新聞

### 九州豪雨避難や被災者支援

#### 朝倉の2民間団体に県防災賞

九州豪雨で被災者のケアや住民の避難に貢献したとして、朝倉市の二つの民間団体が県防災賞（団体部門）を受



県防災賞を受賞した「朝倉災害母子支援センター きずな」と「上池田区」の関係者

賞し、同市の中野信哉副市長に報告した。

二つの団体は、市民が運営する「朝倉災害母子支援センター きずな」（大場敬子代表）と、自治組織「上池田区」（池田正治区長）。

きずなは、豪雨直後から被災した母子や女性を支援するための避難所を開設。延べ200人超が利用した。助産師や弁護士らによる相談事業も行ってきた。

上池田区は、毎年、地域を挙げて避難訓練を実施。住民が役割分担して高齢者ら弱者支援を行い、早期に避難した。両団体から22日に受賞の報告を受けた中野副市長は「きずなの活動は弱い立場の人のケアをしっかりと考えるという問題提起であり、上池田区の避難訓練は市も参考にしたい」とたたえていた。

受賞者

#### 団体部門

朝倉災害母子支援センター きずな



平成29年7月九州北部豪雨災害における母子支援を行うため、女性ボランティアを中心として設立し、被災母子、女性の避難所として、また女性災害ボランティアの宿泊・拠点として、施設を無料で提供しています。毎週、助産師による母子相談やデイケア、弁護士・人権擁護委員・養護教諭等による生活相談等を実施しています。

さらには、講演会やコンサート、プレーパーク等を月1回開催しています。



2017年(平成29年)7月31日(月曜日)

言

言

衆

聞

# 被災母子 安らく宿泊所

## 朝倉 あすから無償提供

九州北部を襲った豪雨災害で被災した母子に無償で宿泊場所を提供する「朝倉市災害母子支援センターさずな」が8月1日、福岡県朝倉市にオープンする。同市内では小さな子どもを抱えて避難所生活を送る被災者もおり、センター関係者は「親子が心を落ち着ける場所になりたい」と話している。

### 九州北部豪雨



絵本やぬいぐるみなどを並べ、開設準備を進める大庭さん(27日、福岡県朝倉市)＝谷口愛佳撮影

センターは、保育士や助産師の資格者を中心にした市民有志グループが開設。休業中の産婦人科診療所の建物を借り受け、9室(12床)を宿泊場所として提供する。助産師が子どもに関する相談に応じるほか、絵本やぬいぐるみなどをそろえたスペースも用意する。洗濯機や調理場も利用できる。

避難所に関して、市は女性専用室や授乳室を設けるなど女性や子どもに配慮した運営を行っているが、子どもも未来課の時津美穂課長は「母子がリラックスできる場は必要で、民間のこうした動きはありがたい。行政も連携して支援が行き届くようにしたい」と歓迎する。

用も可能。既に母子1組が宿泊を予約しているという。ボランティアの女性も宿泊できる。

朝倉市では今も7か所の避難所に計282世帯559人が身を寄せている。母子支援センター事務局担当の大庭きみ子さん(62)は「母親が疲れると、子どもの世話も行き届かなくなる。心を落ち着け、生活再建に向かうきっかけにして

ほしい」と話している。申し込みや問い合わせは同センター(0946・222078)へ。



2017年(平成29年)8月1日 火曜日 西日本新聞(夕刊)

## 被災母子に無料宿泊所



赤ちゃんを連れてセンターを訪れた女性(左)。スタッフの女性(右)が赤ちゃんをやさしく抱きかかえた  
11日午前10時半すぎ、福岡県朝倉市

九州豪雨で被災した母子が落ち着いて休めるようにと、福岡県朝倉市に1日、休業中の産婦人科診療所を利用した「朝倉市災害母子支援センターきずな」が開設された。宿泊場所を無償提供するほか、相談窓口を設置。スタッフは「安心して過ごせる場所になりたい」と話している。

地元市議や人権擁護委員らを中心に開設し、保育士や教師の資格を持つスタッフが24時間常駐する。エアコンや冷蔵庫を備えた9部

### 朝倉 保育士常駐、相談窓口も

屋(12床)を用意し、共同のシャワー室もある。相談窓口では、平日午後1〜4時に助産師や弁護士らに対応する。

この日は、朝倉市の避難所で過ごしていた母親が2歳と2カ月の子どもを連れて入所した。母親は「里帰り中に被災し、自宅が全壊した。子どもが夜泣きをして、周りに迷惑をかけることがずっと気になっていたのだ、ありがたい」と話した。

宿泊は最長1カ月。災害ボランティアの女性も宿泊できる。きずな110946(22)2078。

(本田彩子)



九州北部の豪雨で被災した母子が心を落ち着けて休めるようにと、元保育士や助産師らのグループが1日、福岡県朝倉市に無料宿泊施設「朝倉市災害母子支援センター きずな」をオープンさせた。個室に寝泊まりでき、おもちゃや絵本がある子供の遊び場も用意した。元保育士の朝倉市議、大庭きみ子さん（62）が「被災した女性に寄り添いたい」と発案、賛同した女性ら十数人と準備を進めた。数年前から休業中の産婦人科診療所を利用し、9部屋（12床）を提供。シャワーや台所、洗濯機は共用で使用で

## 被災母子に安らぎの場

### 九州豪雨 元保育士らが宿泊所



「朝倉市災害母子支援センター きずな」を訪れた母子（1日午前、福岡県朝倉市）

#### 「復興へ女性の力を」

き、スタッフ2〜3人が常駐する。この日午前、2歳の長男と2カ月の長女を連れ

た30代女性は「避難所では夜泣きがひどく、他の人に迷惑を掛けていないか心配だった。個室で生活できるのはありがたにも乗る。大庭さんは「朝倉市の復興に女性の力は欠かせない。リフレッシュして早く元気になってほしい」と話す。

毎週月、金曜日に助産師、木曜日に弁護士が訪ね、育児の悩みや生活再建に向けた手続きの相談

# 被災母子 支える宿

## 朝倉 保育士ら常駐、相談も

九州豪雨で被害を受けた福岡県朝倉市に1日、「朝倉市災害母子支援センター」が開設された。被災した母子に宿泊所を無償提供するほか、相談窓口も設置。スタッフは「高齢者が多い地域のため、母子支援は後回しにされがち。表に出づらぬ母子の声を拾いたい」と話す。

【一面参照】



生後2カ月の長女を抱く女性。里帰り中に被災し、実家が全壊し避難所暮らしを続けてきた。11日午前11時50分ごろ、福岡県朝倉市

### 利用は無料「悩む声 拾いたい」

子どもが夜泣きする、母乳が出なくなる、赤ちゃんの沐浴ができない。災害時、小さな子どもを抱えながら避難生活を送る母親や妊産婦は多くのストレスや悩みを抱える。

1日、センターに入所した30代女性もその一人。同市山田の実家に里帰りに豪雨が発生。実家は全壊し、生後1カ月だった長女と2歳の長男、母親らと避難所での生活を送ってきた。避難後には赤ちゃん返りした長男の夜泣きも始まり、2人が同時に泣きたす夜が続いていることが気になっていた。センターは、本当に「ありがたい」と話す。

災害時の母子支援は常に課題となる。昨年4月の熊本大地震では熊本県助産師会が、発生直後から避難所を巡回。妊産婦の心のケアや、乳児の皮膚トラブルなど960ケースに対応したほか、交流サロンを開くなどして継続的な母子支援を行った。一方で、九州豪雨ではまたこうした母子支援の

子どもが夜泣きする、母乳が出なくなる、赤ちゃんの沐浴ができない。災害時、小さな子どもを抱えながら避難生活を送る母親や妊産婦は多くのストレスや悩みを抱える。1日、センターに入所した30代女性もその一人。同市山田の実家に里帰りに豪雨が発生。実家は全壊し、生後1カ月だった長女と2歳の長男、母親らと避難所での生活を送ってきた。避難後には赤ちゃん返りした長男の夜泣きも始まり、2人が同時に泣きたす夜が続いていることが気になっていた。センターは、本当に「ありがたい」と話す。

動きは広がっていないという。

1日開設した朝倉市の支援センターは、地元市議や人権擁護委員らを中心に立ち上げ、保育士や教師などの資格を持つスタッフが24時間常駐する。建物は、休業中の松元産婦人科(同市来春)を借り、エアコンや冷蔵庫を備えた9部屋12床。平日午後1〜4時に助産師や弁護士など専門家に よる相談窓口を設ける。

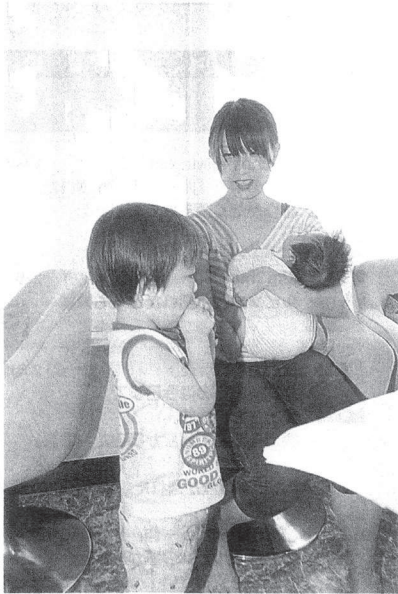
同市では現在、約530人が避難所生活を送るほか、親戚や知人宅などに身を寄せる人もいるが、幼い子どもを抱えた家庭の実態は把握できていない。

センターの立ち上げの一人、大庭きみ子さん(62)は「朝倉の避難所にも多くの母子がいる。センターを支援拠点に、また表面化していない問題を掘り起こしていきたい」と語る。宿泊は最長1カ月。災害ボランティアの女性も宿泊できる。きすな110946(22) 2078。(本田彩子)



# くつろぎ空間 被災母子へ

## 豪雨被害 朝倉に支援施設オープン



ロビーでくつろぐ女性と子どもたち＝朝倉市来春

### 宿泊無料 ■ 専門家の助言も

九州北部豪雨で被災した母子らに安心してすごしてもらおうと、朝倉市来春に1日、民間の女性グループが運営する「災害母子支援センター きすな」がオープンした。無料で利用でき、栄養士や保育士、助産師の資格を持つスタッフがバックアップする。

遠賀郡の30代の女性は、2歳7カ月の長男と生後2カ月の長女を連れて入居した。出産で朝倉市山田の実家に里帰りしている最中に被災、避難所で過ごしていた。「ちゃんとした個室があり、子どもの泣き声で周囲に迷惑をかけるのではと心配しなくてすみます」建物休業中の元産婦人科医院を活用した。2階の元病室を使った宿泊スペースに個室6室、2人部屋3室がありベッドは計12床。活動は①母子または女性の避難所②女性と子どもの相談・支援③女性ボランティアの宿泊・拠点の三本柱。相談は月・金曜は助産師、火曜は養護教諭など、水曜は人権擁護委員、木曜日は弁護士と曜日別に分野を決めている。電話相談も受け付ける。

センターの事務局役で朝

倉市議の大庭きみ子さん(62)は「災害時には、母子・女性支援が後回しになりがち。早くケアしてあげたかった」と話す。センターの役員は17人、ボランティアも約30人いる。

元医院だけに、1階のカウンセリングルームや、絵本やおもちゃがあるロビー、2階の調理室やお風呂といった設備も充実。部屋には洗面所や冷蔵庫も備え、個室はトイレ付きだ。

女性専用のため、男性の入館は関係者に限り、1階までしか入れない。また「中学生以上の男児の避難はご相談を」としている。

市内7カ所の避難所では、1日朝現在で計547人が暮らす。市子ども未来課の時津美穂課長は「元産婦人科医院という施設面でもきめ細か。新生児はお風呂などでも過ごしやすいでしょう」。問い合わせは災害母子支援センター「きすな」(0946・22・2078)。(渡辺松雄)



2017年(平成29年)8月2日(水) 毎日新聞

# 被災母子に宿泊所提供



「災害母子支援センターきずな」で事務局の大庭さん(右)と話す母子3人

## 朝倉 「きずな」オープン 各種相談も「役に立てれば」

豪雨で被災した母子らに宿泊所などを提供する「朝倉市災害母子支援センターきずな」が1日、同市来春で休業中の松元産婦人科医院にオープンした。早速2組が入所し、不便な避難所生活から解放され安らぎを取り戻した。

「きずな」は保育士や助産師、元教師ら18人の運営スタッフで設立した。代表は大場敬子さんで、事務局を市議の大庭きみ子さんが担当。2階の9室が母子や女性ボランティアアラの無料宿泊所で、期間は原則1カ月、子供は18歳まで。1階に子供の遊び場、カウンセリングルームがある。

入所した2歳と2カ月の2児がいる30代の母親は「(市内の)山田に出産で帰省中に被災し父は心労で倒れ入院した。避難所では夜泣きで迷惑、かけないかと心配するな、どストレスがあった。個室を頂けるのは本当にありがたい」と喜んだ。

各種相談事業も実施する。電話(0946・22・2078)は午前10時〜午後8時。大場代表らは「被災した女性と子供たちの健康と生活の回復に役に立てばうれしい。寄付とボランティアで運営されるので、ご協力をお願いしたい」と話していた。

【勝野昭龍】

## 役員名簿

役 職	事務局	名 前	所 属
代 表	○	大場 敬子	I 女性会議朝倉支部
副 代 表	○	星野 洋子	特定非営利活動法人 住みよいあさくらをめざす風おこしの会
事務局長	○	大庭きみ子	朝倉市議会議員 / I 女性会議朝倉支部
会 計		山下 千春	すくすく朝倉の未来隊！
理 事		池田 良子	福岡市議会議員 / I 女性会議福岡県本部議長
理 事		辻本美恵子	筑紫野市議会議員
理 事		秋永 峰子	久留米市議会議員
理 事		松崎百合子	大野城市議会議員
理 事		平山 光子	大牟田市議会議員
理 事		佐々木明子	朝倉市議会議員 / I 女性会議朝倉支部
理 事		岡部ノブ子	福岡県退職教職員協議会朝倉支部
理 事	○	堀江いつ子	I 女性会議朝倉支部
理 事	○	鍋島 初美	I 女性会議福岡県本部副議長
理 事	○	奥 節代	I 女性会議福岡県本部事務局長
理 事		松元久美子	福岡県助産師会
監 事		中山 昭一	福岡県退職教職員協議会朝倉支部
監 事		國武亜夕美	たんぼぼ会会長
顧 問		神本美恵子	参議院議員
顧 問		林 裕二	元福岡県議会議員
顧 問		栗原 涉	福岡県議会議員
顧 問		堤 かなめ	福岡県議会議員
顧 問		渡邊 美穂	福岡県議会議員

## あとかき

「朝倉災害母子支援センターきずな」の「報告書」としてまとめるとりくみを始めて5か月あまり、ここにようやく発行することができました。開所準備7月から閉所3月までの9か月間を辿り、一つ一つの活動を振り返りまとめる作業は厳しいものでした。編集委員で分担を決め、原稿を持ち寄り、持ち帰りの連続でした。しかし、自分たちが歩んできた道のりを再度確かめるいい機会でもありましたし、今後の課題も共有できました。

また、スタッフや相談員などとして関わっていただいた方々からも寄稿していただきました。活動された当事者の思いも伝わってきて、充実した内容になりました。この報告書は、これで終わりではなく、今後の平時・災害時の母子支援に活用していただけることを期待します。「きずな」を支援していただいたすべてのみなさまに、心より厚くお礼を申し上げます。



2018年7月5日

編集委員 大場 敬子  
星野 洋子  
大庭 きみ子  
堀江 いつ子  
奥 節代  
鍋島 初美

### 「朝倉災害母子支援センター きずな」報告書

発行日 2018年7月5日  
発行者 朝倉災害母子支援センターきずな  
〒838-0069  
福岡県朝倉市来春 328-1  
☎ 0946-22-2078  
印刷所 株式会社 四ヶ所







朝倉災害母子支援センター

きずな